第２章　当院の現状と課題

１　国及び静岡県の動向

⑴　国の動向

厚生労働省は、今後も人口減少や少子高齢化が続く中、各地域において将来の医療需要を見据えつつ、新興感染症等や大規模災害などの緊急事態が発生した際にも機動的・弾力的に対応できるよう、質が高く効率的で持続可能な医療提供体制を整備するため、都道府県に対し令和６年度からの第８次医療計画の策定を要請し、地域医療構想や地域包括ケアシステム、医師の働き方改革や偏在対策といった各種施策を一体的に推進しています。

地域医療構想については、都道府県が2025年（令和７年）の医療需要と病床の必要量を推計し、その実現に向けて、各都道府県において取組が進められています。加えて、厚生労働省は、「新経済・財政再生計画　改革工程表2021（令和３年12月23日経済財政諮問会議決定）」において、各都道府県における「第８次医療計画（令和６年度～令和11年度）」の策定作業と併せて、令和４年度及び令和５年度において、「地域医療構想に係る各医療機関の対応方針の策定や検証・見直しを求める」こととしたところであり、これにより、公立病院にもその対応が求められています。

医師の働き方改革については、時間外労働規制が令和６年度から医師にも適用が開始されることとなりました。医師の労働環境の改善は重要な課題でありますが、現在でも医師不足に直面している公立病院にとって、医師の時間外労働時間の上限が設定されることで、さらに診療体制の維持等が厳しい状況となることが見込まれ、その対策は喫緊の課題であります。

医師偏在対策については、都道府県が医師確保計画を策定し、医学部における地域枠等の設定・拡充を行うなど、令和18年を目標年として様々な取組を進められているところです。引き続き、厚生労働省において構造的な対策を講じていくとともに、各都道府県においても、医師の偏在解消に向けた取組が求められています。

また、新興感染症等への対応については、第８次医療計画から「新興感染症等の感染拡大時における医療」が記載事項に追加されることも踏まえ、公立病院においても、感染拡大時に備えた平時からの取組を進めることが求められています。

総務省においては、公立病院経営改革として、令和４年３月29日付けで「公立病院経営強化ガイドライン」を発出し、医師・看護師等の不足、人口減少・少子高齢化に伴う医療需要の変化等の中で持続可能な地域医療を提供していくため、各医療機関間での機能分化や連携強化等を通じた役割分担の明確化・最適化を進め、限られた医師・看護師等の医療資源を地域全体で最大限効率的に活用していくという視点から、公立病院の経営を強化していくことを求めています。

⑵　静岡県の動向

静岡県は、医療法第30条に基づいて策定した「第８次静岡県保健医療計画（2018年度～2023年度（計画期間６年間））」に関し、令和２年度に在宅医療を、令和３年度には在宅医療以外の項目についての中間見直しを行いました。

令和３年度の見直しでは、主に、循環器病対策基本法を踏まえた脳卒中及び心筋梗塞等の心血管疾患に関する医療体制の見直しや国の次期医療計画（第８次）に感染症対策が「事業」に加わることを見据えて、新興・再興感染症対策の記載が追加されました。

また、静岡県は、令和５年度に「第９次静岡県保健医療計画（2024年度～2029年度）」を策定することとなっており、本計画では、今後見込まれる在宅医療の需要増加に向

け、「在宅医療において積極的役割を担う医療機関」及び「在宅医療に必要な連携を担う拠点」を計画に位置付け、適切な在宅医療の圏域を設定することになっています。

2　地域医療構想

⑴　地域医療構想

地域医療構想は、人口減少・少子高齢社会の将来人口推計をもとに2025年（令和７年）の必要病床数（病床の必要量）を４つの医療機能ごと（「高度急性期」、「急性期」、「回復期」及び「慢性期」）に推計した上で、地域の医療関係者の協議を通じて機能分化と連携を進め、効率的な医療提供体制を実現する取組みです。

⑵　静岡県地域医療構想

構想区域ごとに「地域医療構想調整会議」（以下「調整会議」といいます。）を設置し、関係者の協議を通じて、地域の高齢化等の状況に応じた病床の機能分化と連携を進めています。

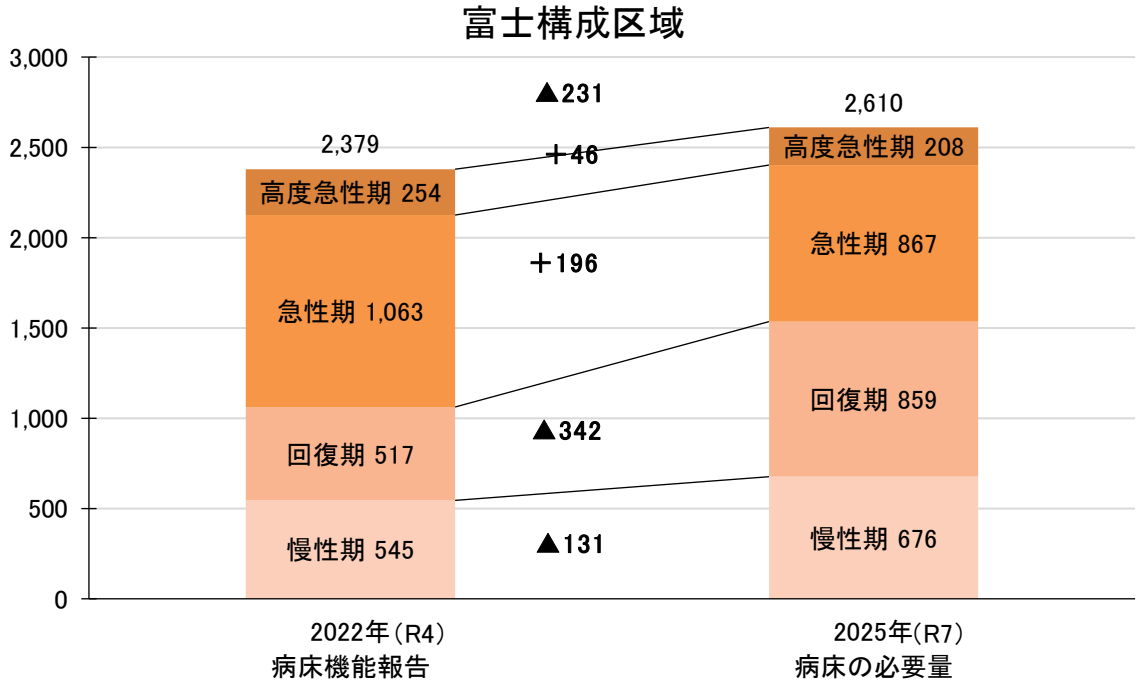
静岡県は2016年(平成28年)３月に「静岡県地域医療構想」を策定しました。構想区域は、２次保健医療圏と同じ８つで、当院は、富士構想区域に属しています。

調整会議では、各医療機関が報告する病床機能報告制度に基づく現状の病床数と地域医療構想における2025年（令和７年）の必要病床数を参考にして、余剰または不足が見込まれる機能を明らかにして地域の実情を共有し、関係者の協議によって構想区域における課題を解決し、2025年（令和７年）の医療提供体制構築を目指しています。

⑶　富士構想区域（富士保健医療圏に同じ）の現状

富士構想区域の2025年（令和７年）の必要病床数は、全体で2,610床、「高度急性期」208床、「急性期」867床、「回復期」859床、「慢性期」676床と推定されています。

これに対し、2022年(令和４年)７月の病床機能報告による当構想区域の稼働病床は、「高度急性期」254床、「急性期」1,063床、「回復期」517床、「慢性期」545床の2,379床であり、2025年（令和７年）必要病床数に対し全体で231床不足しています。



３　富士医療圏（富士市・富士宮市）の医療の現状

⑴　富士医療圏の人口推計

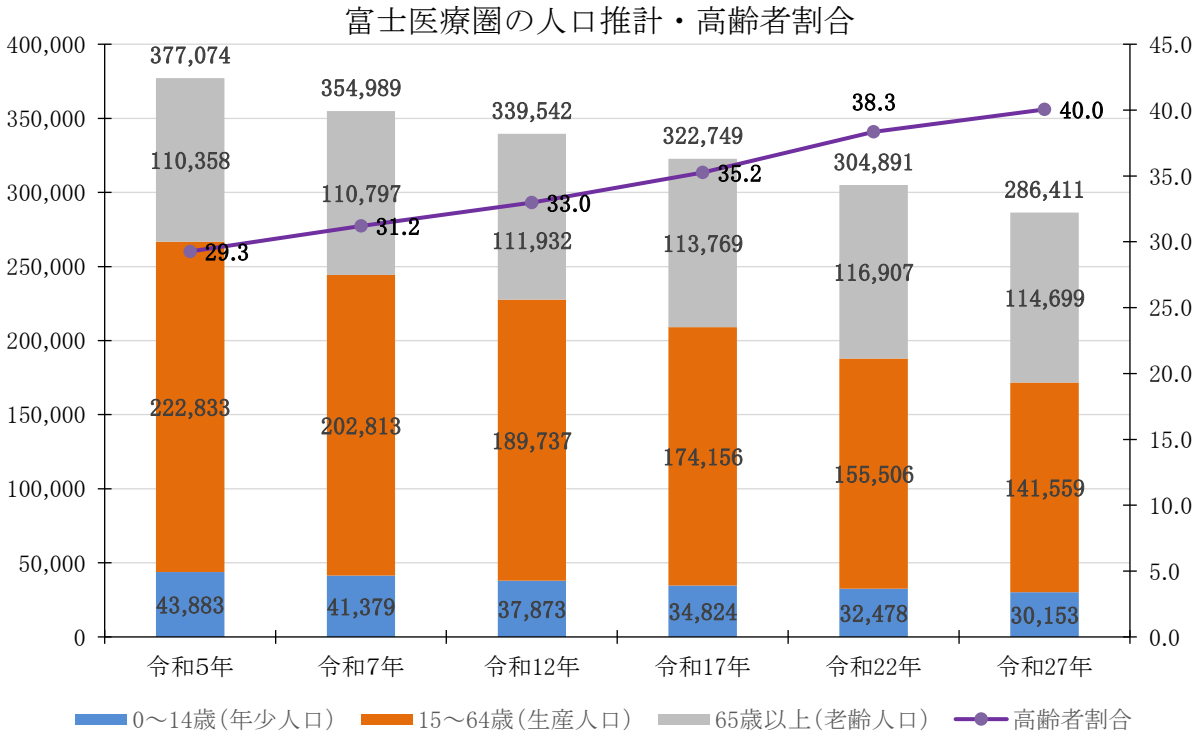
富士医療圏の人口は、減少傾向にあります。

年齢別の構成比を見ると、「０～14歳」及び「15～64歳」の構成比は減少傾向にある一方で、「65歳以上」の構成比は増加傾向にあります。

	令和５年	令和７年	令和12年	令和17年	令和22年	令和27年
0～14歳(年少人口)	43,883	41,379	37,873	34,824	32,478	30,153
構成比(%)	11.6	11.7	11.2	10.8	10.7	10.5
15～64歳(生産人口)	222,833	202,813	189,737	174,156	155,506	141,559
構成比(%)	59.1	57.1	55.9	54.0	51.0	49.4
65歳以上(老齢人口)	110,358	110,797	111,932	113,769	116,907	114,699
構成比(%)	29.3	31.2	33.0	35.2	38.3	40.0
合　計	377,074	354,989	339,542	322,749	304,891	286,411

※　令和５年は富士市・富士宮市人口統計（令和５年４月１日現在）から出典

※　国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30(2018)年推計）」

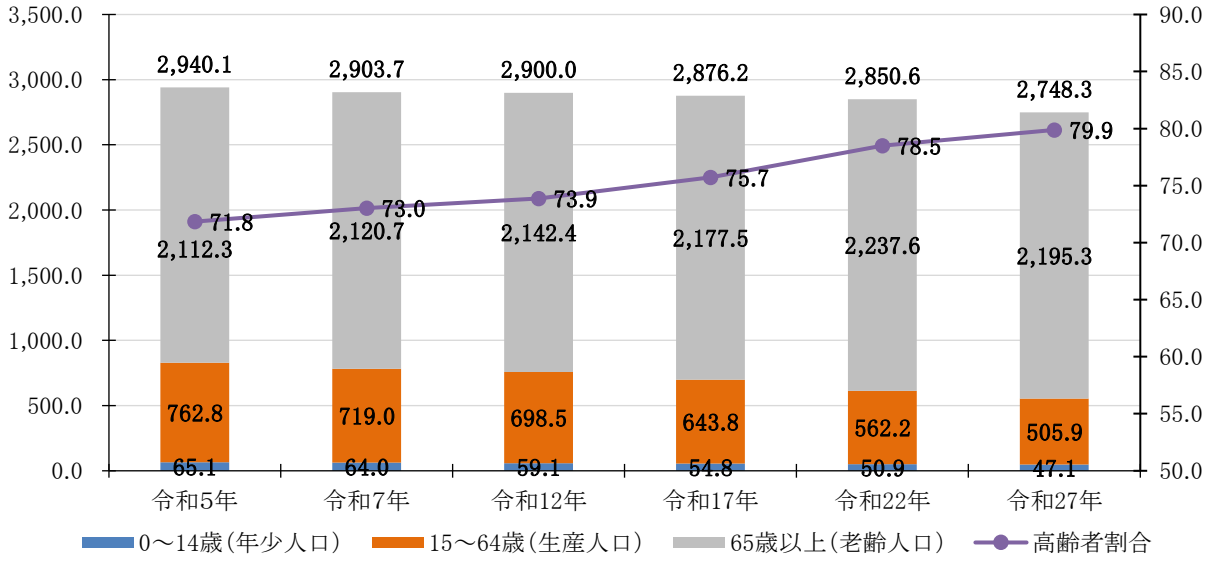


⑵　富士医療圏の入院・外来患者数の推計

ア　１日当たりの入院患者推計

１日当たりの入院患者数は全体として減少が見込まれますが、65歳以上の患者割合は増加することが見込まれます。

富士医療圏　１日当たりの入院患者数推計

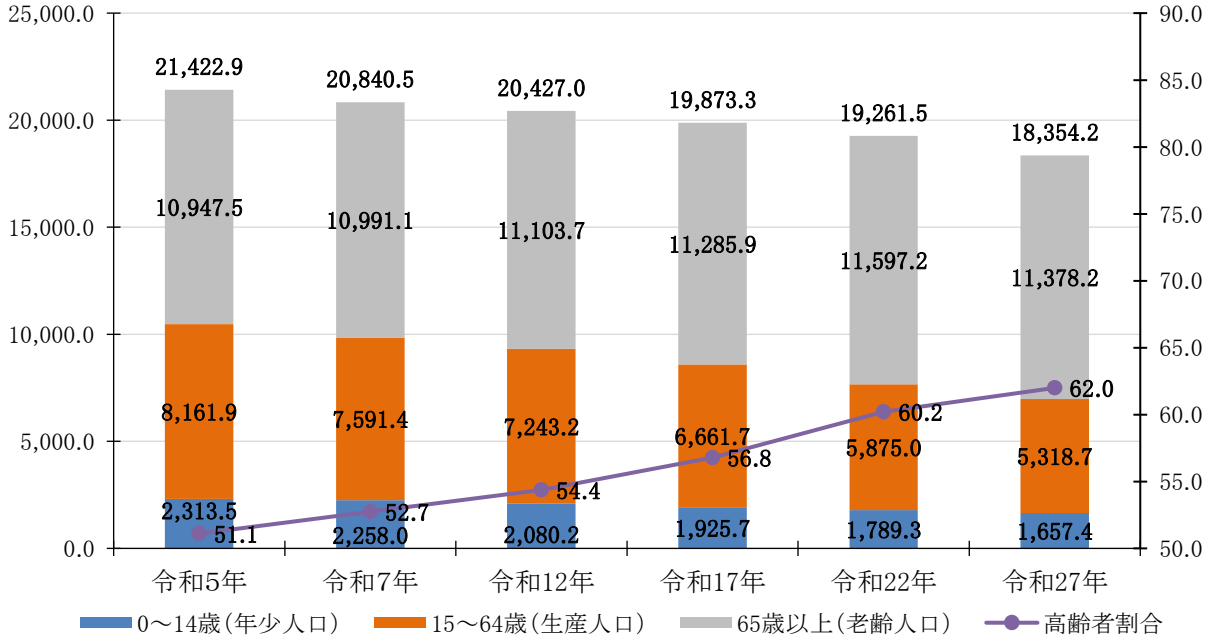


※　入院受療率×人口(年齢別)÷10万

イ　１日当たりの外来患者推計

１日当たりの外来患者数は全体として減少が見込まれますが、65歳以上の患者割合は増加することが見込まれます。

富士医療圏　１日当たりの外来患者数推計



※　外来受療率×人口(年齢別)÷10万

⑶　富士医療圏の医療体制

富士医療圏の病床数は、許可病床2,464床です。

10万人当たりの医師数は148.0人で、静岡県平均との差は62.2人マイナス、全国平均との差は98.7人マイナスとなっており、特に医師の少ない地域となっています。

富士医療圏の病院の病床数

医療機関名称		許可病床数					
		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	計
富士市	共立蒲原総合病院	0	105	70	92	0	267
	富士市立中央病院	220	284	0	0	0	504
	湖山リハビリテーション病院	0	0	96	112	0	208
	新富士病院	0	0	0	206	0	206
	富士いきいき病院	0	0	197	0	0	197
	聖隷富士病院	0	82	35	0	34	151
	富士整形外科病院	0	60	46	0	0	106
	芦川病院	0	0	0	60	39	99
	川村病院	0	76	0	0	0	76
富士宮市	富士宮市立病院	0	350	30	0	0	380
	富士脳障害研究所附属病院	40	40	45	35	0	160
	フジヤマ病院	0	60	0	50	0	110
集計		260	1,057	519	555	73	2,464

富士医療圏の医師数

	全国	静岡県	富士医療圏
10万人当たりの医師数	246.7	210.2	148.0

⑷　富士医療圏の救急医療体制

富士医療圏の第２次救急医療については、４病院の輪番制で対応しています。整形外科患者については、区域内の病院のほか、隣接する区域の病院へ搬送により対応しています。

第３次救急医療については、区域内に救急救命センターがないため、重症患者は隣接する区域の救急救命センターへの搬送により対応しています。

救急車受入れ件数

	H30年	R元年	R２年	R３年	R４年
共立蒲原総合病院	1,081	1,174	1,176	1,237	1,149
富士市立中央病院	3,851	3,742	3,488	3,240	3,864
富士宮市立病院	2,757	2,824	2,835	2,785	2,902
A病院	759	909	801	728	946
B病院	628	627	572	549	561
C病院	182	289	79	200	271
D病院	122	149	155	188	192

※静岡県ホームページ「病床機能報告」から作成（受入れ件数100件以上）

4　当院の現状と課題

⑴　病院の現状

ア　入院

①　入院患者数推移

入院患者延数の推移をみると、全体では令和３年度まで減少傾向にありましたが、令和４年度は増加に転じました。

機能別病床でみると、急性期病床は、入院患者延数の減少が続いています。地域包括ケア病床は、平成30年度から多少の増減があるものの微増となっています。療養病床は、横ばいを維持しほぼ95%を超える高い稼働となっています。

入院患者数推移

			H30年度	R元年度	R２年度	R３年度	R４年度
一般病床	急性期	入院患者延数	22,919人	21,732人	20,635人	20,121人	19,787人
		病床稼働率	80.5%	76.1%	65.0%	58.7%	57.7%
		一日平均患者数	62.8人	59.4人	56.5人	55.1人	54.2人
		稼働病床数	78床	78床	78→83→85→92床	92→94床	94床
		平均在院日数	12.9日	12.0日	11.1日	11.3日	13.3日
	地域包括ケア	入院患者延数	19,444人	19,401人	20,504人	19,335人	20,136人
		病床稼働率	82.0%	76.8%	80.3%	75.7%	78.8%
		一日平均患者数	53.3人	53.0人	56.2人	53.0人	55.2人
		稼働病床数	65床	69床	70床	70床	70床
	計	入院患者延数	42,363人	41,133人	41,139人	39,456人	39,923人
		病床稼働率	81.2%	76.5%	69.6%	66.0%	66.7%
		一日平均患者数	116.1人	112.4人	112.7人	108.1人	109.4人
		稼働病床数	143床	147床	148→153→155→162床	162→164床	164床
療養病床		入院患者延数	32,566人	33,050人	32,746人	31,829人	32,220人
		病床稼働率	97.0%	98.2%	97.5%	94.8%	95.9%
		一日平均患者数	89.2人	90.3人	89.7人	87.2人	88.3人
		稼働病床数	92床	92床	92床	92床	92床
全病床		入院患者延数	74,929人	74,183人	73,885人	71,285人	72,143人
		病床稼働率	87.4%	84.8%	79.7%	76.3%	77.2%
		一日平均患者数	205.3人	202.7人	202.4人	195.3人	197.7人
		稼働病床数	235床	239床	240→245→247→254床	254→256床	256床
稼働日数			365日	366日	365日	365日	365日

②　地区別入院患者数推移

地区別入院患者数推移をみると、令和４年度において富士市（56.1%）、蒲原・由比地区（26.8%）で全体の８割を超える患者を受け入れており、旧富士市の入院患者比率が平成30年以降増加傾向にあります。

地区別入院患者数推移　　（単位：人、％）

地 区		H30年度	R元年度	R２年度	R３年度	R４年度
富士市	旧富士川町	18,476(24.7)	14,715(19.8)	13,380(18.1)	12,249(17.2)	11,033(15.3)
	旧富士市	23,187(30.9)	27,983(37.7)	28,409(38.5)	29,564(41.5)	29,462(40.8)
	計	41,663(55.6)	42,698(57.6)	41,789(56.6)	41,813(58.7)	40,495(56.1)
静岡市	旧蒲原町	13,832(18.5)	12,730(17.2)	11,265(15.2)	10,800(15.2)	12,564(17.4)
	旧由比町	7,884(10.5)	7,326(9.9)	7,851(10.6)	6,905(9.7)	6,758(9.4)
	旧清水市	2,928(3.9)	3,051(4.1)	3,057(4.1)	3,436(4.8)	2,538(3.5)
	旧静岡市	172(0.2)	397(0.5)	608(0.8)	451(0.6)	649(0.9)
	計	24,816(33.1)	23,504(31.7)	22,781(30.8)	21,592(30.3)	22,509(31.2)
富士宮市	旧芝川町	1,621(2.2)	1,317(1.8)	1,489(2.0)	1,126(1.6)	1,753(2.4)
	旧富士宮市	4,857(6.5)	5,377(7.2)	6,410(8.7)	5,576(7.8)	5,398(7.5)
	計	6,478(8.6)	6,694(9.0)	7,899(10.7)	6,702(9.4)	7,151(9.9)
上記以外の県内		833(1.1)	914(1.2)	896(1.2)	804(1.1)	1,552(2.2)
県外		1,139(1.5)	373(0.5)	520(0.7)	374(0.5)	436(0.6)
合 計		74,929 (100.0)	74,183(100.0)	73,885(100.0)	71,285(100.0)	72,143(100.0)

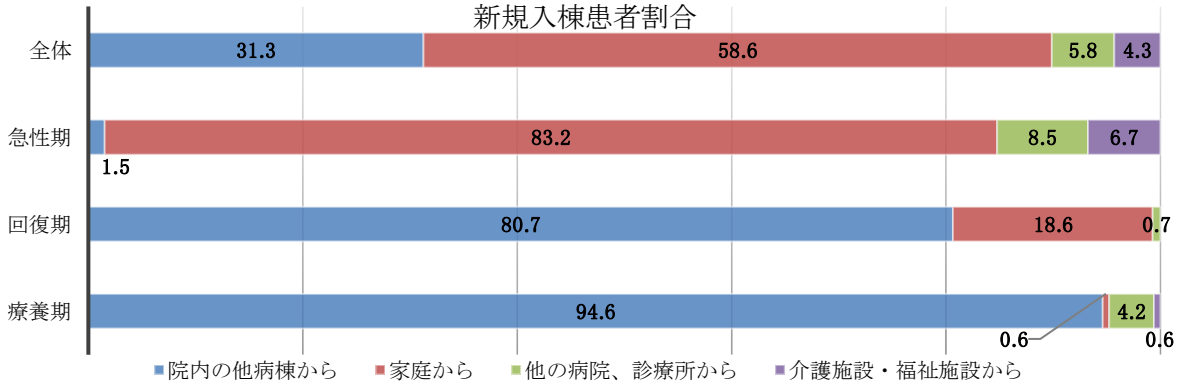
※　端数処理の関係で、合計と一致しないことがあります。

③　新規入棟患者数の内訳

新規入棟患者数の内訳をみると、急性期病棟については、家庭から入棟する患者が最も多く、全体の８割を超えています。これに対して、回復期病棟・療養期病棟は、院内の他病棟から入棟する患者が最も多くなっており、一方で、他の病院や介護施設等から入棟する患者の割合は低い傾向にあります。

令和４年度新規入棟患者数の内訳（令和４年病床機能報告）

	院内の他病棟から	家庭から	他の病院、診療所から	介護施設・福祉施設から	計
全体	980	1,838	183	135	3,136
構成比(%)	31.3	58.6	5.8	4.3	100.0
急性期	30	1,654	169	134	1,987
構成比(%)	1.5	83.2	8.5	6.7	100.0
回復期	792	183	7	0	982
構成比(%)	80.7	18.6	0.7	0.0	100.0
療養期	158	1	7	1	167
構成比(%)	94.6	0.6	4.2	0.6	100.0



イ　外来

①　外来患者数推移

外来患者数は、令和元年から令和２年度にかけて減少していますが、コロナ禍にあっても連日「発熱外来」で、患者を受け入れたことや新たに医師を採用したことにより令和３年度以降徐々に増加しています。

外来患者数推移

	H30年度	R元年度	R２年度	R３年度	R４年度
外来患者延数	78,037人	81,670人	76,175人	79,490人	81,865人
１日平均患者数	319.8人	337.5人	313.5人	328.5人	336.9人
稼働日数	244日	242日	243日	242日	243日

②　地区別外来患者数推移

地区別外来患者は、令和４年度において富士市（51.5%）、蒲原・由比地区（37.2%）で全体の８割を超える患者を受け入れており、旧富士市の外来患者比率が平成30年以降増加傾向にあります。

地区別外来患者数推移　（単位：人、%）

地区		H30年度	R元年度	R２年度	R３年度	R４年度
富士市	旧富士川町	23,827(30.5)	25,625(31.4)	22,900(30.1)	23,909(30.1)	23,764(29.0)
	旧富士市	15,554(19.9)	15,749(19.3)	15,621(20.5)	16,792(21.1)	18,432(22.5)
	計	39,381(50.5)	41,374(50.7)	38,521(50.6)	40,701(51.2)	42,196(51.5)
静岡市	旧蒲原町	21,891(28.1)	22,250(27.2)	21,218(27.9)	21,345(26.9)	21,568(26.3)
	旧由比町	9,437(12.1)	9,887(12.1)	9,085(11.9)	9,068(11.4)	8,896(10.9)
	旧清水市	1,078(　1.4)	1,047(　1.3)	1,012(　1.3)	1,150(　1.4)	1,521(　1.9)
	旧静岡市	197(　0.3)	186(　0.2)	162(　0.2)	282(　0.4)	563(　0.7)
	計	32,603(41.8)	33,370(40.9)	31,477(41.3)	31,845(40.1)	32,548(39.8)
富士宮市	旧芝川町	1,520(　1.9)	1,703(　2.1)	1,515(　2.0)	1,466(　1.8)	1,375(　1.7)
	旧富士宮市	3,656(　4.7)	4,127(　5.1)	3,812(　5.0)	4,252(　5.3)	4,430(　5.4)
	計	5,176(　6.6)	5,830(　7.1)	5,327(　7.0)	5,718(　7.2)	5,805(　7.1)
上記以外の県内		327(　0.4)	467(　0.6)	337(　0.4)	658(　0.8)	690(　0.8)
県外		550(　0.7)	629(　0.6)	513(　0.7)	568(　0.7)	626(　0.8)
合　計		78,037(100.0)	81,670(100.0)	76,175(100.0)	79,490(100.0)	81,865(100.0)

※　端数処理の関係で、合計と一致しないことがあります。

ウ　救急医療

救急医療について、当院は富士医療圏の輪番制に入っていないものの、富士市と静岡市の市境に位置しているという地理的特性から、富士医療圏だけでなく、静岡医療圏からの患者さんに対しても、一次及び二次救急ともに可能な限り対応しています。救急患者の受入は、令和２年の新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け減少しましたが、毎年度1,000件以上の救急車受入を行っています。

また、富士医療圏は、救急医療に関し「６３０（ろくさんまる）問題」を抱えており、当院の周辺自治体の人口は減少傾向にあるものの、救急隊の出動は増えていくことが予測されることから、救急医療の受入強化が求められています。

救急患者受入件数

	H30年度	R元年度	R２年度	R３年度	R４年度
救急患者数	3,575	3,676	2,665	2,871	2,712
うち救急車受入件数	1,132	1,208	1,236	1,149	1,121
応需率※	89.8%	89.7%	88.2%	86.3%	77.2%

※応需率　分子：救急患者数（救急車・ウオークインで来院した患者数）
　　分母：受入要請人数（救急患者数に受入断りを含めた患者数）

エ　再検証要請対象医療機関への抽出と再検証

令和元年９月26日(木)、厚生労働省「地域医療構想に関するワーキンググループ」において、公立・公的医療機関が策定している各構想区域における2025年の地域医療構想における「具体的対応方針の再検証」を要請する医療機関名（全国424病院）が公表され、当院はこの対象医療機関に抽出されました。

これに対し、令和３年３月２日に開催された令和２年度第４回富士地域医療構想調整会議において、具体的な対応方針の再検証をした結果、近隣病院と当院は、競合関係にあるのではなく連携・補完関係にあるため、当院は再編・統合をせず、地域の医療機関と連携を取り、役割分担をしながら運営していくこととなりました。

⑵　健康診断センターの現状

ア　施設内健診

健康診断センター受診者数は、施設内健診については、人間ドックにおいて令和２年度に新型コロナウイルス感染症拡大による受診控えの影響を受けて減少したものの、脳ドックとその他の健診を除き、全体として増加傾向にあります。

施設内健診　（単位：人）

	H30年度	R元年度	R２年度	R３年度	R４年度
一泊二日ドック	98	125	108	118	129
一日ドック	2,011	1,944	1,752	1,818	2,041
脳ドック	78	78	85	55	50
生活習慣病健診	3,851	3,890	4,054	4,292	4,585
特定健診	298	323	335	390	366
その他の健診	788	814	439	379	353
合　計	7,124	7,174	6,773	7,052	7,524

イ　検診車による出張健診（一部院内での実施有り）

検診車による出張健診は、令和２年度以降減少し続けており、特に、特定健診の健診数の減少が大きくなっています。

検診車による出張健診　（単位：人）

	H30年度	R元年度	R２年度	R３年度	R４年度
生活習慣病健診	24,654	25,014	23,697	24,409	24,944
特定健診	2,473	2,464	1,709	1,901	1,831
その他の健診	8,751	8,788	9,106	8,458	7,362
合　計	35,878	36,266	34,512	34,768	34,137

⑶　訪問看護ステーションの現状

ア　利用者数推移

訪問看護ステーションの利用者は、コロナ禍にあって、在宅医療の需要が増えたことから令和３年度まで増加しているものの、令和４年度は減少に転じています。

利用者数推移　（単位：人）

	H30年度	R元年度	R２年度	R３年度	R４年度
訪問看護	6,672	6,918	7,400	7,447	7,132
訪問リハビリ	2,528	2,527	2,570	2,660	2,511
計	9,200	9,445	9,970	10,107	9,643

イ　地区別利用者数推移

令和４年度の利用者は、富士市（48.9%）、蒲原・由比地区（50.5%）で全体の９割を超える利用があり、平成30年度以降、蒲原・由比地区の利用者が増加傾向にあります。

地区別利用者数推移　（単位：人、%）

地区		H30年度	R元年度	R２年度	R３年度	R４年度
富士市	旧富士川町	2,216(24.1)	2,432(25.7)	2,712(27.2)	2,311(22.9)	2,270(23.5)
	旧富士市	2,751(29.9)	2,688(28.5)	2,553(25.6)	2,512(24.8)	2,448(25.4)
	計	4,967(54.0)	5,120(54.2)	5,265(52.8)	4,823(47.7)	4,718(48.9)
静岡市	旧蒲原町	2,324(25.3)	2,057(21.8)	2,477(24.8)	3,011(29.8)	2,897(30.1)
	旧由比町	1,845(20.1)	2,204(23.3)	2,179(21.9)	2,236(22.1)	1,968(20.4)
	計	4,169(45.3)	4,261(45.1)	4,656(46.7)	5,247(51.9)	4,865(50.5)
富士宮市	旧芝川町	41(　0.4)	46(　0.5)	49(　0.5)	37(　0.4)	60(　0.6)
	旧富士宮市	23(　0.3)	18(　0.2)			
	計	64(　0.7)	64(　0.7)	49(　0.5)	37(　0.4)	60(　0.6)
合　計		9,200(100.0)	9,445(100.0)	9,970(100.0)	10,107(100.0)	9,643(100.0)

※　端数処理の関係で、合計と一致しないことがあります。

⑷　当院の課題

ア　病院の課題

①　医師の確保

当院に勤務する常勤医師数は22人であり、限られた人数の中で、通常診療に加え、新型コロナウイルス感染症への対応など、公立病院としての責務を果たしてきました。

しかし、当院に勤務する医師の平均年齢は53歳（最も高齢の医師は71歳）と高く、常勤医のいない診療科もあることから、今後安全で良質な医療を安定的に提供していくことが困難となる恐れがあります。

このため、医局訪問や医師紹介会社の活用等、第６章に記載した様々な方策を実施し、医師を確保していく必要があります。

また、前述した当院に勤務する医師の高齢化に対しては、若手医師を積極的に採用し、病院医師の年齢バランスを整えていく必要があります。

②　地域連携等による患者の受け入れ

当院は、「急性期」、「回復期」及び「慢性期」の各病棟を有しています。これらの病棟機能を生かすためには、急性期患者の受入のほか、回復期や慢性期の患者の受入を積極的に行う必要があります。特に「回復期」や「慢性期」の病棟では、急性期病棟からの転棟による患者受入だけでなく、病院外からの紹介による患者の受入も強化していかなくてはなりません。

このため、近隣の医療機関や地域包括支援センター、訪問看護ステーション等との連携を強化することで、近隣の医療機関等から当院の「回復期」や「慢性期」の病棟に入院する患者の受入を積極的に行っていきます。併せて、当院の健康診断センター受診者で精密検査を必要とする患者さんの受入も積極的に行っていきます。

③　経営改善への取組

累積欠損金は生じていないものの、毎年度、病院経営の安定のため構成市から補助金を受けている状況です。今後、構成市の財政が一層厳しくなることが見込まれ、補助金の圧縮が求められる中、経営改善への取組が必要となってきます。

このため、本計画では、医師の確保に取り組みつつ、救急受入強化や地域の医療機関等との連携強化による新規患者の獲得（収益改善）や、経費の見直し等による費用削減を実施することで、経営改善を図っていきます。

イ　健康診断センターの課題

当院の健康診断センター事業は、病院の附帯事業として位置付けられ、貴重な収入源となっています。

健康診断の繁忙期である春から秋までについては、現在受託している企業の予約でほとんどのスケジュールが埋まっており、新たな企業に健康診断の実施を案内できるスケジュールの余裕がない状況です。

今後は、閑散期である冬期や比較的予約の少ない午後に健康診断を実施する企業の獲得を目指します。

ウ　訪問看護ステーションの課題

当院の訪問看護ステーション事業は、健康診断センター事業と並び病院の附帯事業として位置づけられています。

コロナ禍で「入院すると面会できない」「終末期は自宅で看取る」等の理由から訪問看護の需要は増えてきていました。当院の訪問看護ステーション利用者数も令和３年度までは順調に増加していました。しかしながら、令和４年度は利用者やその家族がコロナに感染したことによるキャンセルが増え、利用者数は減少しました。

今後は、減少傾向の利用者を増やすため、ケアミックス病院であることや介護老人保健施設「芙蓉の丘」を併設している強みを生かし、今まで以上に院内病棟における退院前カンファレンスへ参加して訪問看護の需要を開拓していきます。